

(様式第2号)

# 会 議 録

令和8年5月1日作成

会 議 の 名 称	令和8年度第1回島本町介護保険事業運営委員会		
会 議 の 開 催 日 時	令和8年4月23日(木) 午前10時～同11時50分		
会 議 の 開 催 場 所	島本町役場 1階 第1多目的室		
公 開 の 可 否	可 <del>一部不可</del> <del>不可</del>	傍聴者数	1名
非公開の理由(非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)			
出 席 者	委 員	明石委員(委員長) 岸委員 東田委員 赤木委員 北條委員 瀬野委員 原田委員 仲野委員 湊本委員 金丸委員 佐脇委員	
	事 務 局	(健康福祉部) 原山部長 根本次長 (高齢介護課) 藪内課長 辻本係長 森山主査	
会 議 の 議 題	1. 島本町の介護予防の取り組みについて 2. 保険者機能強化推進交付金・保険者努力支援交付金の評価結果について 3. 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」及び「在宅介護実態調査」の集計概況について 4. その他		
決 定 事 項 等			
審 議 等 の 内 容	別紙のとおり		
配 布 資 料	配布資料 島本町の介護予防事業について 【資料2-1】 機能強化推進交付金等の概要 【資料2-2、2-3】 島本町の状況 (参考資料①) 機能強化推進交付金等のR7予算国説明資料 (参考資料②) R7年度保険者機能強化推進交付金・保険者努力支援交付金に係る評価指標(市町村分) 【資料3-①】速報値 第10期島本町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査_単純集計表 【資料3-②】速報値 第10期島本町在宅介護実態調査_単純集計表 【資料3-③】過去調査結果と速報値との比較分析		

<p>配 布 資 料</p>	<p>【その他案件資料①-1】介護人材実態調査の概要資料  【その他案件資料①-2】《島本町》介護人材実態調査_事業所票（施設・通所系）  【その他案件資料①-3】《島本町》介護人材実態調査_事業所票（訪問系）  【その他案件資料①-4】《島本町》介護人材実態調査_職員票（訪問系）  【その他案件資料②】島本町ケアマネアンケート調査票案【第10期用】R 8. 4. 22</p>
----------------	--

<案件1 島本町の介護予防の取り組みについて>

（事務局から案件について説明）

【委員】 島本町では介護予防について素晴らしい取り組みをされている。ただ、運動はできているが、骨折が多いということをどう捉えていったらいいのか。予防のための啓発として、百歳体操のおさらいで骨密度測定はされているのか。

【事務局】 おさらい訪問では骨密度測定は実施していない。

【委員】 実態としては骨折が多いという点が気になる。骨折で入院することになると、認知症につながったり、話が大きくなってしまう。せっかくの介護予防の取り組みをどうつなぐかが課題ではないか。

【事務局】 百歳体操の中で骨折に特化した取り組みを行うことは難しいが、町として骨折や骨粗鬆症予防の啓発は行っている。今後は地域に出向く健康測定会の一つとして、骨粗鬆症予防も踏まえた形での展開を考えている。運動に取り組んでいるのに骨折が多い要因としては、潜在的な骨粗鬆症が多いことが予測される。予防について健康教育で伝えていきつつ、地域に出向いてサロンや健康測定会の機会をもちたい。

【委員長】 資料の最終ページに今後の展開をまとめていただいているが、どこの自治体も循環器系疾患に次いで、骨折や転倒が多い。今後の介護予防の課題である。

【委員】 骨折や転倒は外で起こっているのか、内で起こっているのか。環境的要因を知りたい。

【事務局】 比較的下肢の骨折が多いと捉えている。年代によっても骨折の仕方は違うが、比較的若い方は外で活動中に大きな骨折をしてしまうことが多く、後期高齢者になると、骨粗鬆症が積み重なっていつの間にか骨折をしてしまうというケースがみられる。

【委員長】 高齢になると下肢の力が衰えて、家の中で台座から落ちてしまったり、庭の敷石に躓いたりして骨折につながることが多いと聞く。

【委員】 骨粗鬆症も一つの原因かと思うが、高齢独居や高齢夫婦が増加する中で、都市部に比べて自分で自転車やバイクを運転されている方が多いように思う。高齢独居や高齢夫婦世帯の場合、家族と同居されている高齢者に比べると、色んなことを高齢者自身がされている。骨折の要因は世帯構成や町内の交通機関とも関係しているように思う。都会田舎である島本町としての分析も必要ではないか。健康に自信があるがゆえに、骨折につながってしまうという人もいるように感じる。

【委員長】 リスクに対する注意喚起が必要である。

- 【事務局】 高齢独居や高齢夫婦が増加する中での課題として、今までの生活が少しずつできなくなって来た時に、転倒や骨折をしてしまうことは起こりうる。次の計画の中で考えていく必要がある大きな課題であると捉えている。
- 【委員】 島本町の高齢者は元気であるがゆえに骨折が多いということも考えられるが、骨密度については若い時からの積み重ねが大事であり、若い世代へのアプローチも重要である。ダイエットをしていて痩せている方も多く、若くても骨粗鬆症という人はいるかと思う。
- 【委員長】 骨粗鬆症についてはロングスパンで対策を考えていく必要がある。
- 【委員】 ふれあいセンターで水中歩行訓練を実施しているかと思うが、介護予防事業に入っているのか。
- 【事務局】 水中歩行訓練事業は介護予防事業の一つであるが、今回の資料では百歳体操に特化して説明させていただいた。水中歩行訓練事業については今後も取り組んでいきたいと考えているし、周知も進めていきたい。
- 【委員】 先日テレビで舌圧が50代くらいから低くなっていき、誤嚥につながるという話題があった。百歳体操の中で、舌圧の測定などはできるのか。将来的には重要な問題になってくるかと思う。
- 【事務局】 舌圧の測定については、歯科医院で受診された際に可能であるが、百歳体操では、個別性と専門性が強く用具も必要であることから、舌圧の測定は予定していない。ただ歯科で測定ができるという啓発は行っている。
- 【委員】 すべての歯科医院で測定器を持っているわけではないが、舌圧は誤嚥に対して重要な要素である。かみかみ百歳体操で行われている嚥下テストの結果についてご報告があったが、歯科医院でも計測しており、3回未満だと要注意であると指導している。かみかみ百歳体の参加者の結果は、府や国と比べても非常に優秀なものであり、予防事業が功を奏しているものと感じた。
- 【委員】 資料の9ページにある「改善した動作」と11ページにある「TUG測定」の結果には因果関係があるように思う。また、国勢調査については令和7年に実施された結果を取ってくるのは難しかったものと思うが、資料の全体として国や府との比較をされている。島本町と人口規模に近い自治体や中核都市など多様なところと比較すると違った読み取りができるのではないかと。
- 【委員長】 様々な側面から比較分析を行ってはどうかというご指摘であった。

## <案件2 保険者機能強化推進交付金・保険者努力支援交付金の評価結果について>

(事務局から案件について説明)

【委員長】 要するに介護保険事業に積極的に取り組んでいるかどうかという点について指標を設定して、点数化し、よくできた自治体には補助金がおけるといいう制度である。島本町は令和2年の府内35位から、令和8年は府内6位の予定であるとの説明であった。国が設定する指標については、なかなか無理難題であり点数を確保することが難しい部分もあるが、うまくいけば多くのご褒美をいただけるということである。

【委員】 点数が高ければ高いほど金額が上がるのか。また、島本町の予算にどういう形で計上されているのか。

【事務局】 参考資料1が予算要求の概算要求書の説明資料となっており、国では交付金に対して一般財源として予算計上されている。各市町村、各都道府県がランキングされているが、点数と人口規模によっても交付金額は変わってくる制度であり、点数のみに比例して金額が高くなるわけではない。島本町に交付されている金額はこの資料には記載していないが、令和7年度において保険者機能強化推進交付金が204万円、保険者努力支援交付金が約460万円であった。国においても予算獲得できている額が減っていることもあり、前年より順位が上がっても金額が増えないということもあった。町の予算書では歳入予算の中で国から受ける交付金として、介護保険の特別会計で計上している。

<案件3 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」及び「在宅介護実態査」の集計概況について>

(事務局から案件について説明)

【委員長】 2つの調査について、速報値を説明いただいた。現時点でご質問やご意見はあるか。

【委員】 直接アンケートに関係することではないが、移動に電動カートを使用されている方をたまに見かける。遠出をする時に乗りたいからということで借りたのだが、駅の駐輪場に止めることができないという。その点について、町として改善策など検討されていることはあるか。

【事務局】 その件については、お聞きして初めて認識した。確認させていただく。

【委員】 ニーズ調査において、地域づくりに「参加したくない」という割合が増加している。この点についてどういう風にもっていったらいいかが課題であると感じた。

【事務局】 回を追うごとに「参加したくない」の割合が増加しており、回答する年齢層の変化や、就労している高齢者が増えていることも関係すると予測している。事務局としても意外な結果であり、今後行うクロス集計で出てくる結果も踏まえて、検討していきたい。

【委員長】 この点については、地域福祉計画で実施したアンケートとの突合も必要ではないかと思う。

【委員】 地域づくりに「参加したくない」という割合が上がるのが良いことなのか、悪いのかということもある。本人の気持ちもあるため、地域に溶け込みやすくすることが単純に良いことなのかどうか。また、アンケートでは新聞をとる人が減っており、インターネットを使わない人も増えている結果であったが、今後どうなっていくのだろうかと感じた。若い人が新聞をとらないということはよく聞かすが、高齢者においてもこういう結果が出るとは意外であった。

【委員長】 今後クロス集計などによって傾向が見えてくるかもしれない。

【委員】 外出する際の心配ごとといえば、トイレと休む場所のことである。島本町において日頃からの運動勧奨をするのであれば、公衆トイレやベンチの設置を町として進めていただければ、みんな外に出やすくなるのではないか。

【事務局】 地域の介護保険事業所の運営推進会議においても、同様の意見を利用者から聞いたこともあった。トイレや休憩する場所の整備についてはハード面のことなので、まちづくりの担当部局にご意見を伝えるとともに、マップを整備するなど、町内のトイレや休憩場所が分かるような仕組みが作りたいと考えており、第10期計画に向けた取り組みに含めていきたい。

【委員長】 トイレや休憩する場所の整備はまちづくりの領域でもあるが、今であれば、アプリを活用したマップができればよいかもしれない。買い物先で重たい荷物がある時など、座れるところがあるとありがたいし、トイレの整備も必要である。

アンケートについては詳しい分析ができれば改めてご意見をちょうだいしたい。

#### <案件4 その他>

(事務局から案件について説明)

【委員】 介護家族が高齢者を虐待するケースが気付きである。介護する人同士が話ができる場があればいいと感じている。

【事務局】 集いの場としては認知症カフェがあるが、今回のアンケート調査でも介護者の精神的な負担が大きいことが分かり、気軽に話ができる場に対するニーズも見えてきた。かつては島本町にも介護者家族の会があったが、それに代わる取り組みができればと考えている。介護技術や家で実践できるようなことを周知していく取り組みも必要と考えている。

【委員】 歯科医師会では無料訪問歯科検診を始めている。要介護3以上の方が対象となっているが、ぜひご活用いただきたい。

【委員】 人材不足が切実な状況である。紹介会社を通すと、一人の雇用に百万円程度費用がかかるが、その紹介すらないような状況である。

【委員長】 関連して、外国人の職員が増加している。ある会議で聞いたところでは職員のうち15%が外国人というところもあるが、島本町の実態も気になるところである。また、お話の件については、百万円の費用がかかっても数か月で辞めてしまうというようなケースもあるかと思う。福祉だけでなく産業全体が人材不足であり、人材の確保は国家命題のようになってきている。大変な状況である。

皆さんから多くの貴重なご意見をいただいた。これで会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

(閉会)